

IMAGEnet™ システムのビジネス展開

1. はじめに

株式会社トプコンの医用機器事業部は、「Quality of Vision への貢献」をモットーに、眼に特化した総合医用機器メーカーとして、検査機器から診断機器、治療機器、眼鏡レンズ加工機器と幅広く手掛けております。中でも検査機器、診断機器分野ではトップメーカーとして、人類の眼の健康に貢献しております。

当社医用機器事業の重要商品の一つである眼科画像ファイリングシステム IMAGEnet™ に関しましては、2000年2月に大阪大学病院眼科への大型院内ネットワークシステム導入につき新聞発表しました。

今回は、この IMAGEnet™ システムのその後のビジネス展開につきご説明します。

当社は、世界トップシェアを誇る眼底カメラにおいて、他社に先んじてデジタル画像解析、ファイリングに取り組みました。眼科画像解析、ファイリングシステム IMAGEnet™ は、眼科において世界標準のシステムとなりつつあります。

また、IMAGEnet™ と接続され利用される機器の一つである、瞳孔を散瞳させずに手軽に使用できる無散瞳型眼底カメラ TRC-NW6 シリーズでは、画質の良さと電子映像化により、内科のみならず専門の眼科にも患者に優しい、検者に易しいと大変好評をいただいております。

2. IMAGEnet™ システムの展開

1. 電子カルテへの対応と大型ネットワークの販売増加

わが国の社会構造もIT革命により大きく変革を遂げようとしており、医療の分野においても急速な情報技術の進化により将来への対応が急がれています。厚生労働省が取り組んでいる将来の電子カルテに対して当事業部では早々に検討を進め眼科デジタル画像ファイリングシステム IMAGEnet™ が大きく貢献できるように、他社のオーダリングシステム、病院情報システム、レセプトシステム、DICOMサーバー等との接続も積極的に推進していきます。

さらに、今後システムのサポート及びサービスにも注力していく予定です。具体的には当社の医用機器の修理を行っている(株)トプコンサービスのサービス網を利用してユーザーへのサポートや保守サービスを行うべく計画中です。

この様にIT関連に注力してきた結果、国内における IMAGEnet™ (及び関連機器)の売上は、2000年度までは眼科向け器械の全国内売上売上の40%程度でありましたが2001年度には60%強まで拡大し、今や逆転しております。

IMAGEnet™ 関連製品の国内の2001年度の売上は約25億円を見込んでいます。

先の大阪大学眼科へのシステム導入後も、国内外の大学病院眼科のシステム、眼科専門病院から眼科クリニックまで多くの納入実績を得ております。特に、DICOM対応や電子カルテシステムとの連携に注力した結果、病院システム等の他のシステムとの親和性が向上し、国公立病院、大学病院、大手病院等から当社 IMAGEnet™ システムの指名が益々増加しております。

ちなみに、2001年度の国内における大手総合病院および大手眼科専門病院への IMAGEnet™ のネットワークシステムの納入実績は約20システムで、当社のシェアは、ほぼ100%です。

最近の大型導入事例の一例を紹介いたしますと

(1) 昭和大学

先ごろ昭和大学横浜市北部病院の眼科部門に、IMAGEnet™ システム(Sever 1 台、Multi Station 5 台を含む 20 セット) を納入しました。

このシステムは、眼科初の完全ペーパーレス化を実現するために、各種眼科検査データのデジタル化を目的とした部門システムとして眼科検査データの一元管理を行うと共に電子カルテシステムへの受け渡し手段としても運用されています。本システムで眼科の検査データである視力値、眼圧値等の数値データや前眼部写真、眼底写真等の画像データを主に扱い、検査結果として電子カルテにデータの転載を行っています。このシステムにより同大学では完全ペーパーレス化を実現しております。

納入事例 1 (大学病院)

(2) テレメディスン実験への参画

国土交通省北海道局の『北海道広域医療情報高速ネットワークシステム』プロジェクトに参画しています。

このプロジェクトは、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の3大学と近隣の中核10病院とを光ファイバーネットワークで結び様々な医療情報の交換等に関する実験を行うものです。

このプロジェクトの一つである眼底画像遠隔診断実験のために、赤平総合病院に導入された眼底カメラと IMAGEnet™ システムを札幌医科大学との間(約 100Km) でネットワーク接続し、そこで撮影された各種眼底画像のテレメディスン診断に利用されています。

北海道広域医療

(3) 米国 TOP15 病院に導入

IMAGEnet™ システムは、米国において『US News and World Report 2001 Annual Health Care Report』で選ばれたトップ 17 病院の内、15 の病院に納入実績を有しています。IMAGEnet™ は国内・海外で既に数千台の納入実績を持ち、今や「世界標準」となりつつあります。

なお IMAGEnet™ システムの電子カルテ対応および他の医用画像機器と連携のための最近の取り組みにつきましては、別途、別紙『IMAGEnet™2000 電子カルテ対応機能強化』を参照願います。

2. 人間ドック・集団検診への展開

上述の画像ファイリング関連にて培った技術をもとに人間ドックや集団検診における眼科検査にシステムを展開し更に事業機会を増やしていく予定です。

人間ドックや集団検診市場は我が国の健康日本 21 計画、平成 13 年度第 2 次補正予算（厚生労働省医療分野の IT 化推進：349 億円）等の追い風もあり市場魅力が高まっています。

人間ドック・集団検診分野における無散瞳眼底カメラの市場規模は、約 600 台/年と評価しております。その中に新開発のデジタル眼底カメラとシステムを積極的に投入してまいります。

集団検診への利用例として、2000 年 10 月～2001 年 3 月に、日本緑内障学会と岐阜県多治見市のご協力の下、同市の 40 歳以上の市民約 5 万 4 千人を対象に緑内障実態調査が行われ、当社はこれに全面的に協力し、当社の眼底カメラ、非接触眼圧計、オートレフラクトメータをはじめ IMAGEnet™ システムなどを提供し、そこで得られた検査結果は個人宛に通知されると共に、眼底画像データは個人情報を除いた上で、IMAGEnet™ でファイリングされ日本緑内障学会の複数の眼科専門医による判定および今後の緑内障の研究と予防のために活用されています。

多治見市民眼科検診

以 上